

トレーニングとしての 英語授業考察

～ReadingとWriting指導を見直す～

大阪府貝塚市立第三中学校

やまぐち ひとし

山口 均

【実践の内容】

一見単調になりがちなReadingやWritingの指導を再考し、様々なバリエーションを与える事で、楽しく意欲的に取り組める内容と変化させることができる。速音読や速筆記をはじめとして生徒のチャレンジ精神を刺激し限られた時間内で量をこなすトレーニング的な要素を授業に取り入れた。

【実践の内容】

1 はじめに

英語学習は「外国語習得活動」である。言語習得では、本来的には習熟度という要素よりは、誰にでも共通に備わる本能的かつ生理的な言語習得メカニズムを解析し、それを授業に応用することにこそ学力向上の本質があると考えている。個の言語習得にねらいを定め、少人数授業等の形態論以外の本質的な部分で個に応じる「新しい授業」をいかに創造していくかということに主眼を置いた。

2 英語授業の根幹

英語の授業が週3時間となり、また内容も3割程度の削減が行われた。言語習得の際に一番に優先されるのは、その言語に接している時間や量である。従って週3時間であっても、その中でいかに量を確保し、生徒の興味や関心、意欲を伸長させるメソッドを使用し効果的なストラテジーを構築するかが授業としての根幹となる。

3 メソッド開発の基本的な考え方

体育授業のようにトレーニングということを意識しながら、限られた時間の中で回数と

量をこなすメソッドを開発する。

4 15分で30回のReadingのバリエーション

(1) Slash Reading

意味のかたまりにスラッシュを入れ、1～2秒のポーズを置いて読む。日本語を対比させながら音声処理、意味処理も同時に行う。

(2) Listen and Repeat

(3) Read and Look up

(4) Rehearsal Reading

聴いた英文を頭の中で3回リハーサルさせ、その直後に教師の合図と共に音読する。音読と同時に脳内で音声を高速処理させる。

(5) Pause and Continue

教師が英文を途中でポーズし、その英文に続く部分を生徒に読ませる。

(6) Shadowing

(7) Interpretation Reading

同時通訳の様にチャンクで区切った日本文を次々に英語に変換していく練習を行う。

(8) Quick Reading

30秒間に本文を何回速音読できるかを課題として、猛スピードで英文を読んでいく。

5 Writing指導の工夫

(1) Quick Writing

新出単語1語につき3回ずつ、10秒以内を目標に筆記練習する。制限時間内に指定回数を書き上げ集中力を高め学習効率を上げる。

(2) RewriteからRemakeへ

英文と日本文の両方向変換を行う。音読、黙読で培ったものを、筆記によって定着度を高める。さらに部分的に単語を置き換えてオリジナルの英文へと発展させる。

6 スパイラル学習で定着をはかる

単語や文章を、計画的に期間をあけて繰り返し学習することで確実な定着へとつなげる。

7 まとめ

言語獲得のメカニズムを考察しながら、外国語習得の効率を高め、生徒の学習意欲や達成感を高める技術について、さらに研究を深めていくことを今後の課題としたい。